

教えてください、あなたのことを。①

宮城県仙台市 後藤 義雄 さん (2008 年入会)



しなげるしなげる会員さん

Q 差し支えなければ、年齢、出身地を教えてください。

A 77歳、東京都出身。6年生の8月まで台東区精華小(現在の蔵前小)に在籍していましたが、終戦後の9月からは仙台で暮らしています。

Q ごみ問題に関心を持つようになったのは、いつ頃で、どんないきさつからですか？

A 平成6年、勤務先を定年退職した後、町内のごみ置き場の管理に携わったのが最初かと思います。その後、ごみ問題には「社会的ジレンマ」の本質的問題があることに気づき今日に至っています。なお私にとってのごみ問題は、町内会活動のスタートでもあり、平成10年から今日まで会長や顧問をしてきました。

Q 「ごみ・環境ビジョン21」に入会して下さったきっかけを教えてください。

A ホームページで知りました。その後「ごみ・環境ビジョン21」の大学セミナーに参加し、ごみかんが長期にわたって真剣に取り組んでおられることを知って少しは応援したいと考えたものです。

平成19年に読んだ「物理学者、ゴミと闘う」(広瀬立成著、講談社現代新書)も参考になったような気がします。

Q ごみ問題に関すること以外に、趣味や生きがいは何ですか？

A 趣味といえば、読書・旅行・将棋といったことになりましたが、いずれも“生きがい”とはほど遠い気がします。むしろ“当面する課題に研究的態度で取り組む”ということに生きがいを感じます。

ごみ問題では、日常の諸課題のほか“不適正投棄やフリーライダー的行為とそれへの対策”について特に関心を持っています。

Q 特筆すべき近況があれば、教えてください。

A ごみ問題とは直接の関係はありませんが、ふたつほど…

ひとつは、平成21年に家内を病気で失ったあと、“ケアする人のサポート”とか“看取りや死生観”といった問題のセミナーや講演会に参加したり、関連したグループの応援をしたりするようになりました。

また、今年は震災後、市や町内会を通じた募金などに応じてきましたが、最近、改めて「桃・柿育英会」に参加し、今後10年間、このたびの震災で両親を失った子の学習を応援することにしました。

Q ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことをお聞かせください。

A 私は「ごみ・環境ビジョン21」の考え方や行動を尊敬して応援したいと思っています。今後とも長く活動が続けられることを願っています。

強いて希望をいえば、仙台近辺の先輩会員(年齢ではなく)がいればご紹介いただきたいということでしょうか。